

# 第1章 高知市の概要

## 1 自然等

### (1) 地勢

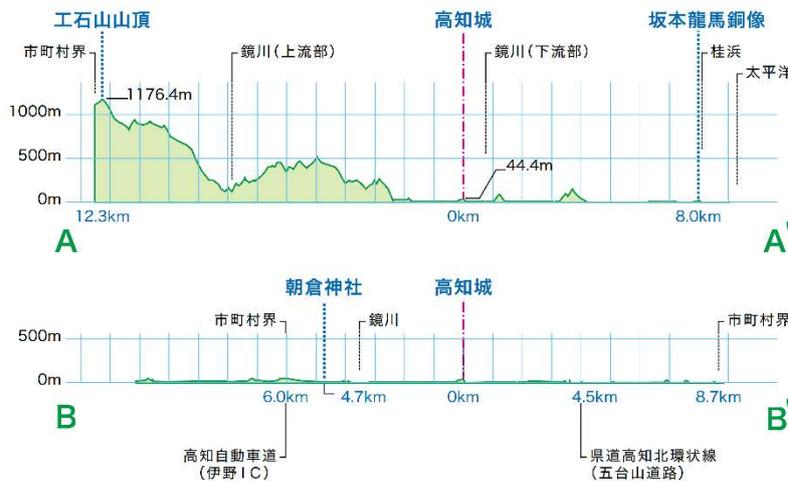
本市は、四国南部のほぼ中央に位置し、市域面積は309.00km<sup>2</sup>、市の北方には急峻な四国山地があり、南は浦戸湾を経て土佐湾に面し、東西に広がる海岸線から黒潮が流れる雄大な太平洋を一望できる地理的条件にあります。



〈高知市の位置〉

市の中央の平野部は、鏡川や国分川などによって形成された沖積平野で、特に河口付近には約7km<sup>2</sup>にわたって海拔ゼロメートル地帯が広がっています。

市の南北方向には、海拔ゼロメートルの臨海地から、一部が標高1,200m近い山岳までの高低差が見られる一方で、東西方向には中央部に広く平地が分布するなど、比較的平坦な移動しやすい地形が続いています。



出典：2011 高知市総合計画 後期基本計画

## (2) 市政のあゆみ

市政の施行は1889（明治22）年であり、以後、幾度の合併を経ながら県都として発展し、1998（平成10）年には四国初の中核市となりました。

現在、県民人口の4割以上の人々が暮らす地方中核都市であるとともに、みどり豊かな森林を持つ鏡村・土佐山村、県内有数の農業生産高を誇る春野町との合併により、中山間地域、田園地域、都市部がバランスよく調和し、仁淀川と、市内中心部を流れる鏡川などの清流を有する都市となっています。

編入年	編入地域	面積累計（k㎡）	人口累計（人）
1889（明治22）年	市制施行	2.810	21,823
1917（大正6）年	江ノ口町	5.772	43,220
1925（大正14）年	旭村	16.509	62,998
	鴨田村の一部	16.826	65,948
1926（大正15）年	下知町、潮江村	29.719	78,225
1927（昭和2）年	小高坂村	30.631	87,173
1935（昭和10）年	秦・初月村	49.291	108,869
1942（昭和17）年	長浜町、御豊瀬・高須・一宮・浦戸・三里・五台山・布師田・朝倉・鴨田村	135.351	141,094
	（昭和45年10月1日の国土地理院面積調を基に修正）	133.120	-
1972（昭和47）年	大津・介良村	143.120	256,801
	（昭和50年10月1日の国土地理院面積調を基に修正）	143.235	-
	（昭和63年10月1日の国土地理院面積調を基に修正）	144.520	-
1988（昭和63）年	南国市の一部	144.68	-
1997（平成9）年	三里（公有水面埋立地造成）	144.69	-
1998（平成10）年	〃（ 〃 ）	144.95	-
2001（平成13）年	〃（ 〃 ）	144.97	-
2004（平成16）年	〃（ 〃 ）	145.00	-
2005（平成17）年	鏡・土佐山村	264.28	330,705
2008（平成20）年	春野町	309.22	343,199
	（平成26年10月1日の国土地理院面積調を基に修正）	308.99	-
	（平成28年10月1日の国土地理院面積調を基に修正）	309.00	-

出典：2011 高知市総合計画 後期基本計画

### ※令和3年10月1日付け世帯数及び人口

世帯数	総人口	0～14歳	15～64歳	65歳以上
164,548世帯	323,218人	38,358人	187,571人	97,289人
	(100%)	(11.9%)	(58.0%)	(30.1%)

出典：住民基本台帳人口統計

## 2 人口の状況

### (1) 総人口及び世帯数

本市の総人口は、2005（平成17）年から自然減に転じ、2020（令和2）年国勢調査においては326,545人となっています。

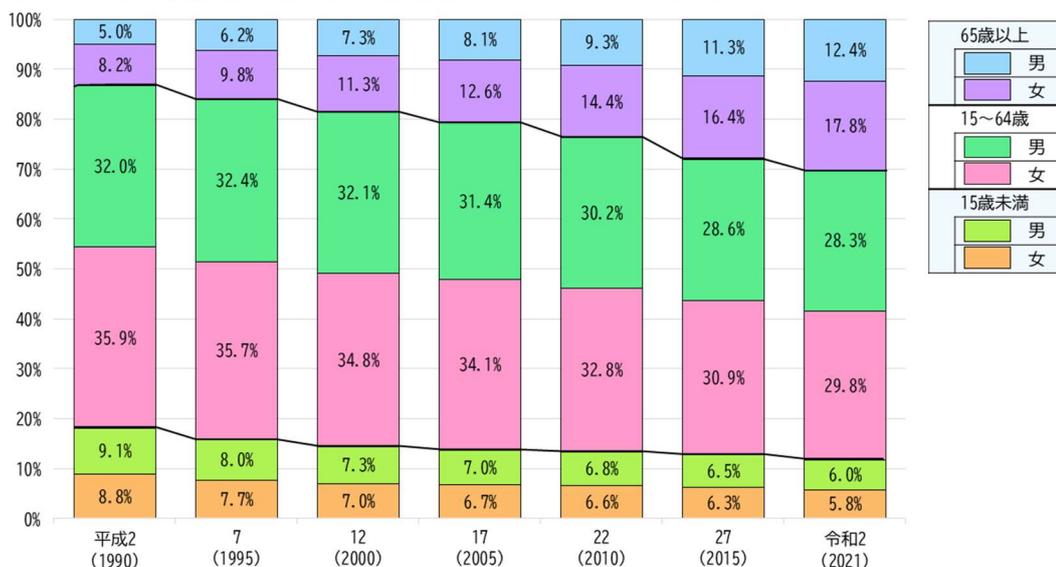
世帯数は、2020（令和2）年において減少に転じ、154,171世帯となり、1世帯当たりの人員も減少傾向にあり、2020（令和2）年で2.12人となっています。



出典：2011 高知市総合計画 後期基本計画  
令和2年は国勢調査

### (2) 年齢3区分別人口

2020（令和2）年現在で、0～14歳が11.8%、15～64歳が58.1%、65歳以上が30.2%となっており、年々高齢化率の上昇、若年層の減少が進んでいます。

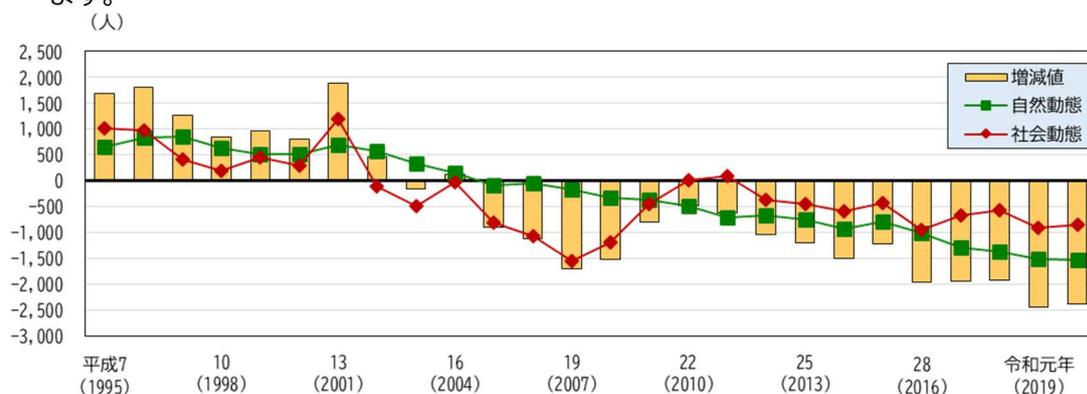


出典：国勢調査

※ 旧高知市・旧鏡村・旧土佐山村・旧春野町の合計値。端数処理等の関係で、表記数値合計は100%にならない。

### (3) 人口動態

本市の人口動態（出生・死亡による「自然動態」及び転入・転出による「社会動態」による人口の動き）の状況を見ると、全体では、2005（平成17）年以降マイナス傾向となっています。



出典：高知県移動調査、高知市住民基本台帳

※ 旧高知市・旧鏡村・旧土佐山村・旧春野町の合計値。各年次は、前年10月から当年9月までの数値。

### (4) 将来人口推計

本市の総人口は、少子化の進行や、転出者が転入者を上回る社会移動により、今後、減少することが見込まれています。

国立社会保障・人口問題研究所の試算によると、本市の人口は、2045（令和27）年には271,051人まで急速に減少すると予想されており、本市では、高知市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンを策定し、人口減少の克服に取り組むこととしています。



出典：国勢調査、2011高知市総合計画 後期基本計画

### 3 市民意識調査

#### (1) 調査概要

◆調査目的

「2011高知市総合計画（2016基本計画改訂版）」に位置付ける各施策の重要性・満足度を把握し、今後の市政運営に当たっての資料として活用する目的で、「令和2年度高知市民意識調査」を実施

◆調査地域

高知市全域

◆対象者

令和2年度5月1日現在の住民基本台帳登録者のうち、20歳以上の市民269,430人の中から3,000人を無作為抽出

◆実施期間

令和2年6月17日(水)～令和2年7月7日(火)

◆回収状況

回収数 1,412人／回収率 47.1%



#### (2) 調査内容<公共交通に関連する項目を抜粋>

本市が実施している施策について、現在の満足度と今後の重要性を調査するもの。

項目	設問	①現在の満足度					②今後の重要性				
		満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満	重要性が高い	どちらかといえば	どちらともいえない	どちらか低い	重要性が低い
40	安全で円滑な交通体系の整備 利便性が高い快適な交通環境の実現に向けて、広域交通ネットワークの強化を図るとともに、地域の実情に応じた公共交通体系の構築や、公共交通の利用促進の取り組んでいます。	a	b	c	d	e	ア	イ	ウ	エ	オ

### (3) 調査結果

本市が実施している50の施策のうち、交通に係る「施策40. 安全で円滑な交通体系の整備」の市民満足度が最も低く、次いで都市計画に係る「施策39. 地域特性を活かした、バランスのとれた都市の形成」と続いています。

また、性別、年齢別、世帯構成別、居留意向別においても、「施策40. 安全で円滑な交通体系の整備」の市民満足度が最も低い結果となっていることから、交通に関する取組の強化が求められています。



<相関図の図形について>

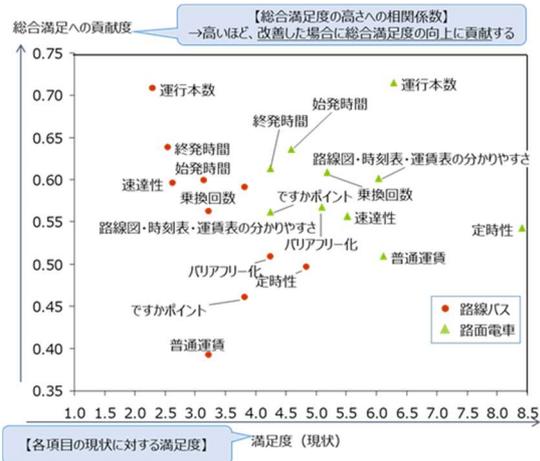
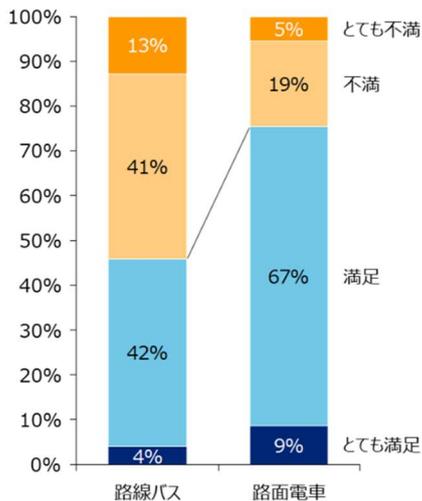
1. 豊かな自然を育む緑と水辺の保全	26. 青少年の健全な心と体の育成
2. 豊かな自然とのふれあい	27. 高等学校教育の充実
3. 地球にやさしい環境汚染の防止	28. 学びが広がる生涯学習の推進
4. 地域文化の継承と発展	29. ライフステージに応じた生涯スポーツの推進
5. 資源循環型都市の構築	30. 多様な魅力的な芸術・文化活動の推進
6. 廃棄物の適正処理による環境負荷の低減	31. 先人から受け継いだ歴史文化・文化財保護の推進
7. 環境にやさしい地球温暖化防止対策の推進	32. 大地の恵みを活かした農業の振興
8. 平和理念の普及と人権尊重の社会づくり	33. 山・川・海の恵みを活かした林業・漁業の振興
9. 男女が共に活躍できる社会づくり	34. 地場企業の強みを活かした産業の振興
10. 地域の絆を強める地域コミュニティの活性化	35. 観光魅力創造・まごころ観光の推進
11. 地域防災力の向上（命をつなぐ対策の推進）	36. 魅力あふれる商業の振興
12. 地域住民の支え合いによる地域福祉の推進	37. 新たな事業の創出と企業誘致
13. NPO・ボランティア活動の推進	38. いきいきと働ける環境づくり
14. 生きがいづくりと介護予防の推進	39. 地域特性を活かした、バランスの取れた都市の形成
15. 高齢者の地域生活支援	40. 安全で円滑な交通体系の整備
16. 障がいのある人への支援	41. 魅力あふれる都市美・水と緑の整備
17. 障がいのある人の社会参加の促進	42. 安全で安定した水道水の供給
18. 生活困窮者の自立支援	43. 命を守る対策の推進
19. 地域医療体制と健康危機管理体制の確立	44. 消防・救急・医療体制の強化
20. 衛生的な生活環境づくりと動物愛護の推進	45. 災害からの迅速な復旧
21. 生涯を通じた心身の健康づくり支援	46. 復旧・復興体制の強化
22. 子ども・子育て支援の充実	47. 多様な交流・連携の推進
23. 心と体の健やかな成長への支援	48. 新しい人の流れを生み出す移住・定住の促進
24. 生きる力を育む学校教育の充実	49. 市民から信頼される行政改革・財政の健全化
25. 安全で安心な教育環境の整備	50. 持続可能な公共施設の提供
24. 生きる力を育む学校教育の充実	49. 市民から信頼される行政改革・財政の健全化
25. 安全で安心な教育環境の整備	50. 持続可能な公共施設の提供

## 4 公共交通に関するアンケート調査

### (1) 路線バス・路面電車利用者アンケート（とさでん交通実施）

平成28年10月のバス路線再編に当たって、ウェブモニターのほか、県・市老人クラブ、高等学校にアンケートを依頼し、1,177名から回答を得ました。

#### バス・路面電車の総合満足度



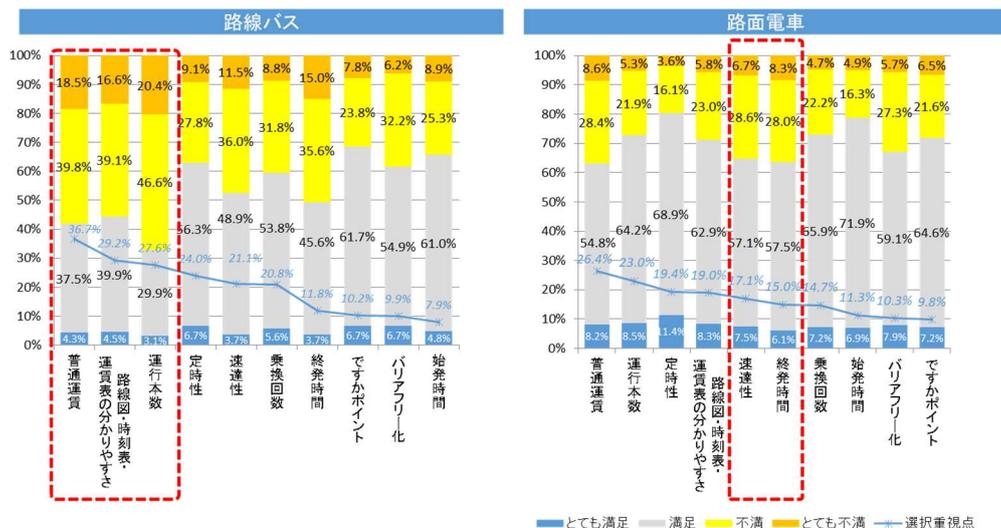
路線バス：利用者の半数以上が「不満」「とても不満」と感じています。

特に、運行本数、始発時間・終発時間について、改善が求められています。

路面電車：利用者の7割を超える方が「満足」「とても満足」と感じています。

始発時間・終発時間について改善が望まれています。

#### 項目ごとの満足度



路面電車は総合満足度・項目ごとの満足度ともに高い結果であったのに対し、路線バスについては満足度が低いことが明らかになりました。

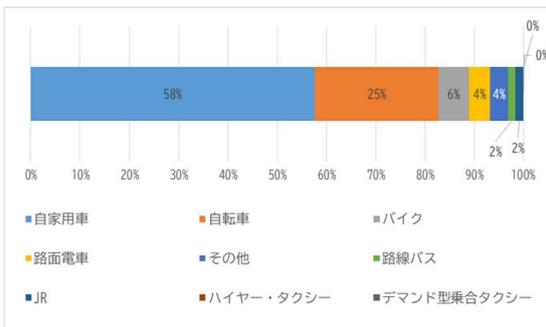
特に満足度の低い、「普通運賃」「運行本数」「路線図・時刻表・運賃表の分かりやすさ」の改善が総合的な満足度向上につながると考えられます。

## (2) 公共交通利用者アンケート（高知市実施）

令和3年6月10日～22日にかけて、高知市市民ウェブモニターに登録している20代から80代の市民に対して公共交通に関するアンケートを実施し、191名から回答を得ました。

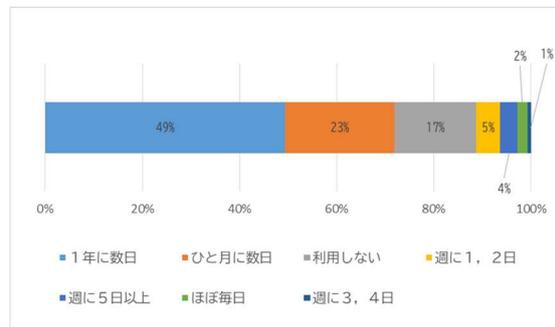
### ◆日常生活に利用している交通手段

「自家用車」が圧倒的に多く、全体の約6割を占めます。一方で、公共交通を合わせた割合は1割にも満たない結果となっています。



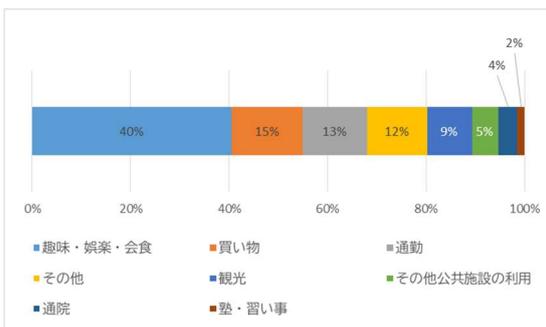
### ◆公共交通を利用する頻度

「1年に数日」「利用しない」という、公共交通を日常的に利用しない人は7割近くになっています。



### ◆公共交通の利用目的

公共交通の利用目的は、「趣味・娯楽・会食」が最も多くなっています。



### ◆公共交通を不便だと感じる理由（複数回答）

「便数が少ない」「利用したい時間にバスが走っていない」が理由に挙げられています。

